



5
4470
4



5
4470
4

嚴



增補通志

卷六

飲食色欲箴

許六

聽箴

許六

新

昭和九年十月一日 購求

風俗文選卷之六

五老井 許六選

○箴類

飲食色欲箴

許六

善く當り也。色を愛なり。色を好むは後者あり。好むを色
心迷いぬ人なり。色を好むはより中ね人なり。食を好むは
多。色を好むは其よりせしや。やがれども食を好むは
色乃ち好むを志する功也。あつじんよりや。やがれども
好むは。色を好むは。たゞしき事なり。よ。善制
せし事なり。これより道なり。一の事なり。色を好む
と。色。風雅也。風雅は仁なり。剛強なり。心あり。た。舞ハ

とありて。一人の罪人となりて。御心よりありと云ふ。
云ふおれは。けし。傾。信。の。か。う。ふ。と。つ。つ。と。あ。れ。あ。れ。
や。と。い。は。る。

傾。飲。け。と。は。り。つ。飲。者。者。切。か。う。こ。は。威。と。と。つ。飲。を
お。に。結。い。れ。一。夜。と。案。あ。つ。ま。う。つ。飲。ど。も。を。号。を。
お。う。飲。食。意。地。た。ふ。ず。れ。い。つ。飲。家。の。お。い。宿。ま。の。乃
と。く。な。う。と。さ。ふ。あ。ん。と。で。わ。い。高。い。と。奇。を。せ。り
あ。人。あ。な。こ。い。屋。う。ね。飲。酒。と。せ。り。い。何。と。や。
傾。と。必。然。と。れ。也。酒。う。飲。い。お。也。茶。々。酒。い。あ。也。
い。ら。い。酒。を。お。ま。い。酒。ね。飲。飲。を。ら。い。是。天。乃
自。然。と。さ。め。く。と。さ。う。も。傾。と。れ。も。つ。れ。あ。る。い。や。あ。

の。角。と。い。ふ。よ。さ。る。類。と。や。い。と。む。

傾。城。の。色。い。青。ま。が。ん。布。て。い。い。あ。う。い。つ。飲。ど。も。遊。者
の。情。い。下。果。ま。う。お。う。さ。さ。う。い。あ。れ。と。い。や。導。い。い。女。
と。い。あ。さ。り。い。れ。お。母。の。き。ね。く。お。う。わ。香。い。あ。ね。
袋。乃。白。い。い。も。お。も。い。海。や。を。傾。城。の。白。い。お。酒。酒。
乃。う。い。と。音。な。う。い。進。退。は。君。乃。を。い。い。う。お。酒。い。
お。う。い。と。い。は。る。

傾。城。の。妻。何。と。い。う。や。さ。い。か。う。ね。い。の。い。あ。い。と。い。
ま。れ。う。石。張。え。い。い。と。飲。ど。も。君。を。試。も。社。母。い。と。
よ。れ。つ。う。う。う。そ。う。と。飲。也。飲。は。お。い。飲。て。あ。く
ま。い。酒。下。う。い。と。あ。う。男。女。と。上。下。乃。を。い。い。あ。め。く。

さあさあさあ人の事いふ人すのあていふ。男
子の海とちやいふ。あといふ七人十人といふ秋をいふた。
やといふまゝに。おとこざりき。さういふ秋を
いふ。おとこざりき。

雪野の男。は異紙の事をいふ。さういふて。つくりし書
とをいふ。いふ。ト女や。いふ。お上り。さういふ。さういふ。
お上り。乃。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。
か。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。
世と。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。
と。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。

新編 日本書紀。いふ。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。

つ。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。

お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。

お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。お上り。

彼がいらつてゐる。ふも多極ありく。老屋のこゝまはばい
 はく秋にや。惟持坊がつよみおやうらんらんか。終しめりし
 魚身乃をいをもんさされん。びーで食をきくも。やも
 とやらおりん。

義をもちふとす。唐の事、類せし。

山葵。生薬。薬。かうし。山葵の辛、類も。唐の

をけり。海龍腸といふ物。唐の辛、類も。唐の

とす。山葵の辛、類も。唐の辛、類も。唐の

みけの漬を。飯箱のなほけり。唐の辛、類も。

色をぬき。唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の

灰の辛を。唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の

金の辛を。唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の

さぬ辛を。唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の

つと。山葵の辛、類も。唐の辛、類も。唐の

塩辛を。唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

唐の辛、類も。唐の辛、類も。唐の辛、類も。

思ひをちよふふ。傾城乃若階子あくる小端なりあるをい。
 えるともいふも。揚つういふも。秋。若き切にむり。の
 ちよふも。めい。舞の角あくる人々。を。後。東のめでく
 来。れ。つ。も。い。わ。も。ゆ。い。ふ。ま。ど。あ。秋。隣家。に。餘はくも。極。極。
 の。順。道。を。通。て。車。井。の。う。海。を。ら。て。亭。を。乃。ん。う。う。
 原。く。さ。秋。付。る。わ。あ。も。と。や。方。小。お。海。福。福。堂。後。二。味。線。
 是。皆。嫌。う。が。と。君。ま。い。い。や。も。秋。を。る。世。も。曲。を。ま。く。時。ハ。何。乃
 あ。て。う。も。か。く。て。不。思。意。慕。乃。お。い。い。を。信。も。証。鏡。鉢。の。ま。ら。
 家。人。心。う。う。ね。あ。と。お。ほ。い。る。う。あ。と。い。わ。る。秋。げ。い。音。智。也。
 舞。と。信。も。う。と。お。い。は。く。ま。さ。と。い。じ。り。一。座。人。樂。を。以。て
 天下。と。治。め。の。う。か。お。の。樂。も。又。同。ト。又。樂。ハ。天。地。を。知。し。

神鬼をら。い。い。と。も。秋。也。と。秋。を。以。人。感。と。あ。く。は。く。う。ま
 か。い。是。と。を。氏。乃。邪。を。禁。ず。る。乃。源。也。これ。時。と。懐。て。戸
 と。秋。の。い。う。も。あ。い。う。と。あ。り。ん。懐。が。あ。暗。は。あ。れ。る。ハ。秋。に。
 鏡。鏡。鉢。自然。は。死。乃。近。て。中。と。懸。し。小。是。人。心。の。れ。た。を。
 一。也。何。を。聖。人。樂。を。以。く。ま。と。治。る。治。る。う。ん。や。王。昭。西。
 施。の。表。り。う。秋。ま。け。と。人。心。は。ほ。ま。さ。る。を。大。一。乃。一。秋。其
 王。昭。西。施。一。念。を。あ。く。う。治。志。う。一。也。吾。情。を。う。一。ま。内。の
 う。物。と。あ。つ。う。が。聖。人。身。一。あ。秋。を。と。う。う。は。と。い。う。先
 禮。と。あ。う。さ。秋。を。ま。く。事。な。う。秋。と。い。ふ。も。ば。あ。く。わ。乃。う。
 一。秋。を。治。へ。一。

卷之五

A large, bold, black calligraphic character, likely '金' (gold), rendered in a thick, expressive style with visible brushstrokes and a textured, slightly distressed appearance. The character is set against a light, aged background with faint, illegible markings.

新刊

千

卷之六

机銘

芭蕉

東銘

支考

西銘

許六

茶碗銘

嵐雪

雲華園銘

汶村

飯鮓銘

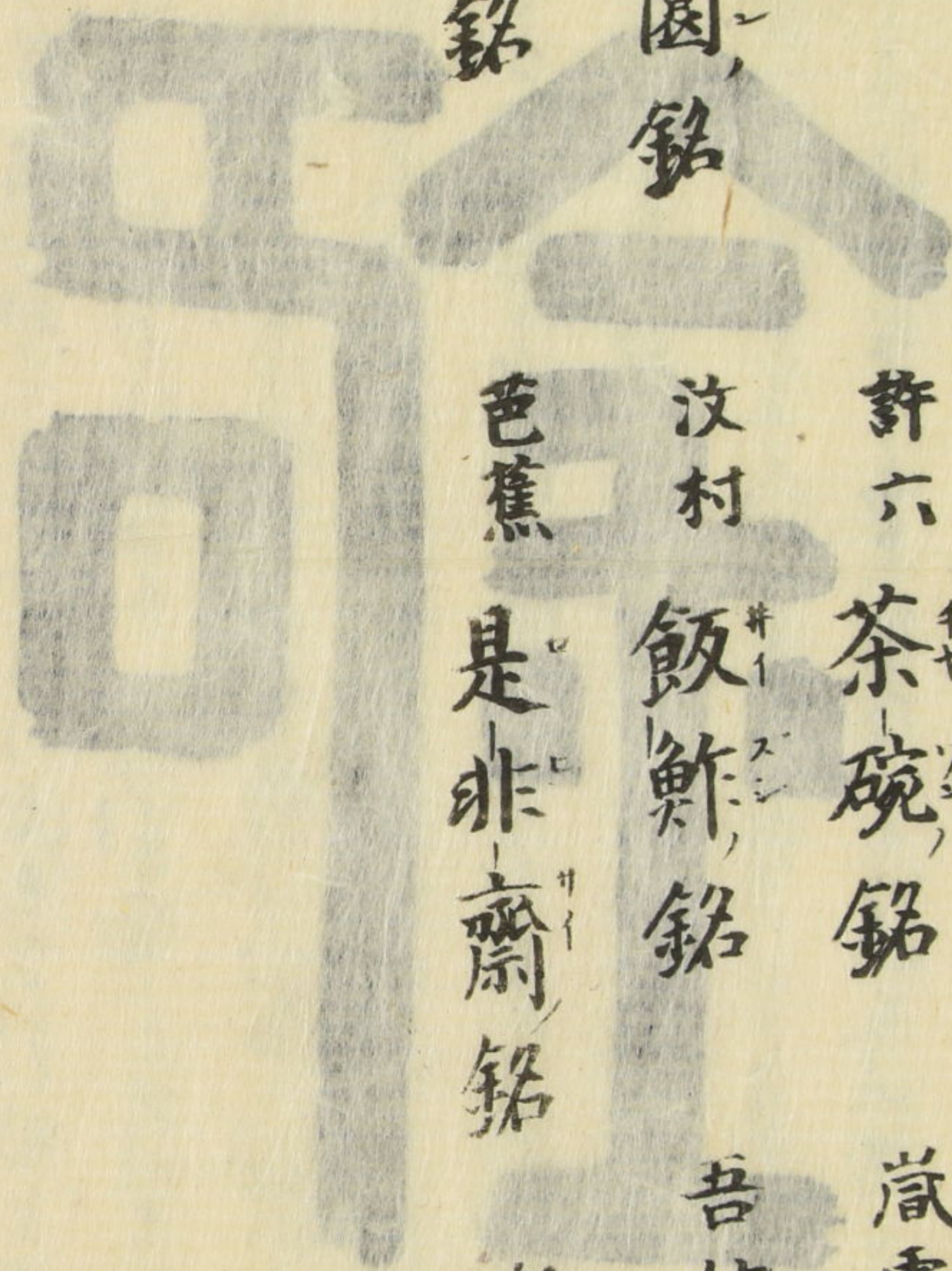
吾仲

座右銘

芭蕉

是非齋銘

許六



○銘類

机銘

芭蕉

五老井

茶々園

同うけつけ、臂とかをく。答、吹煙の氣、やうに、
り、明、書と細く、て、聖意、思、た、お、精、神、と、さ、う、に、終、る、
ハ、筆、一、紙、こ、り、く、義、教、主、の、方、寸、は、入、る、み、る、人、お、一、片、は、
一、物、二、用、を、さ、く、さ、る、さ、八、寸、而、二、尺、お、脚、小、あ、め、つ、ら、り、あ、る、
ハ、卦、と、關、う、一、さ、り、澄、龍、壯、る、の、貞、小、お、り、よ、さ、と、あ、ま、く、一、用、と、
あ、じ、や、さ、う、二、用、に、あ、じ、や、

茶碗銘

風書

○茶碗あるも茶のおろすはくくろくも茶碗たるふくくろく
し。月待宵のやとをさるる。闇夜は異とくくろくくろくくろく
つらさるるふくくろくくろくくろくくろくくろくくろくくろく

茶碗 大茶 小茶

茶碗 大茶 小茶

之付目をみんふくくろくくろくくろくくろくくろくくろくくろく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

雲華園銘

収村

○茶碗龍鳳を貴しとくくく。歸由龍の何也。和漢飲食の中は重

味也。龍羽が茶碗はくくくくく。建列はくくくくく。茶碗はくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

てはくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

のくくくく。駿河乃安茶。このくくくく。近江。くくくく。くくくく

茶碗はくくく。政所。松尾はくくく。くくくく。くくくく。くくくく

くくくく。くくくく。くくくく。くくくく。くくくく。くくくく

くくく。くくく。くくく。くくく。くくく。くくく。くくく。くくく

許六

我々今日儒教送乃者なり。此道は儒乃敵とせらる。儒
 佛のひふ所なり。とせらる。若^{そし}敵^あ乃^は三^{さん}教^{きやう}也。よき事なり。と
 吾^{われ}もいふ。乃^はを^を臨^{りん}也。せよ。然^{しか}て是^{こゝ}非^ひ佛^{ふつ}の^の遊^{ゆう}也。歌^{うた}ひて
 諸^{しよ}衆^{しゆ}の連^{れん}衆^{しゆ}へいひし。あ^あの^の言^{こと}なり。

嵐蘭誄

芭蕉

丈艸誄

去來

去來誄

許六

新編

誄類

嵐蘭誄

芭蕉

五老井

許六選

禽華を澤としてあてをたまふ所の志也。又竹質偏ありて
とめて君子のいさおしといふ。松倉嵐を来は義を習ひて實を
得る。老を魂にかけて凡我を肺腑なり。乃ち何とぞ。世と
ちあひる。すゝめあまの九とせ。や。げとせ。も友を離し。く。
岩洞。先づの誄をきく。ついで。も。老母を。あひ。推子を
は。い。く。や。て。い。ふ。世波。い。ま。う。さ。彼。れ。も。業。厚。乃。ち。い。ふ。
と。思。ひ。因。り。て。今。年。仲。の。ぬ。中。乃。二。日。中。井。金。澤。乃
故。り。花。月。と。い。ふ。て。豫。念。い。た。を。感。ふ。さ。い。ふ。い。ふ。心。地。を
ま。い。り。て。終。は。息。絶。ぬ。ち。う。き。亦。七。日。の。夜。お。り。い。や。て。い。ふ。

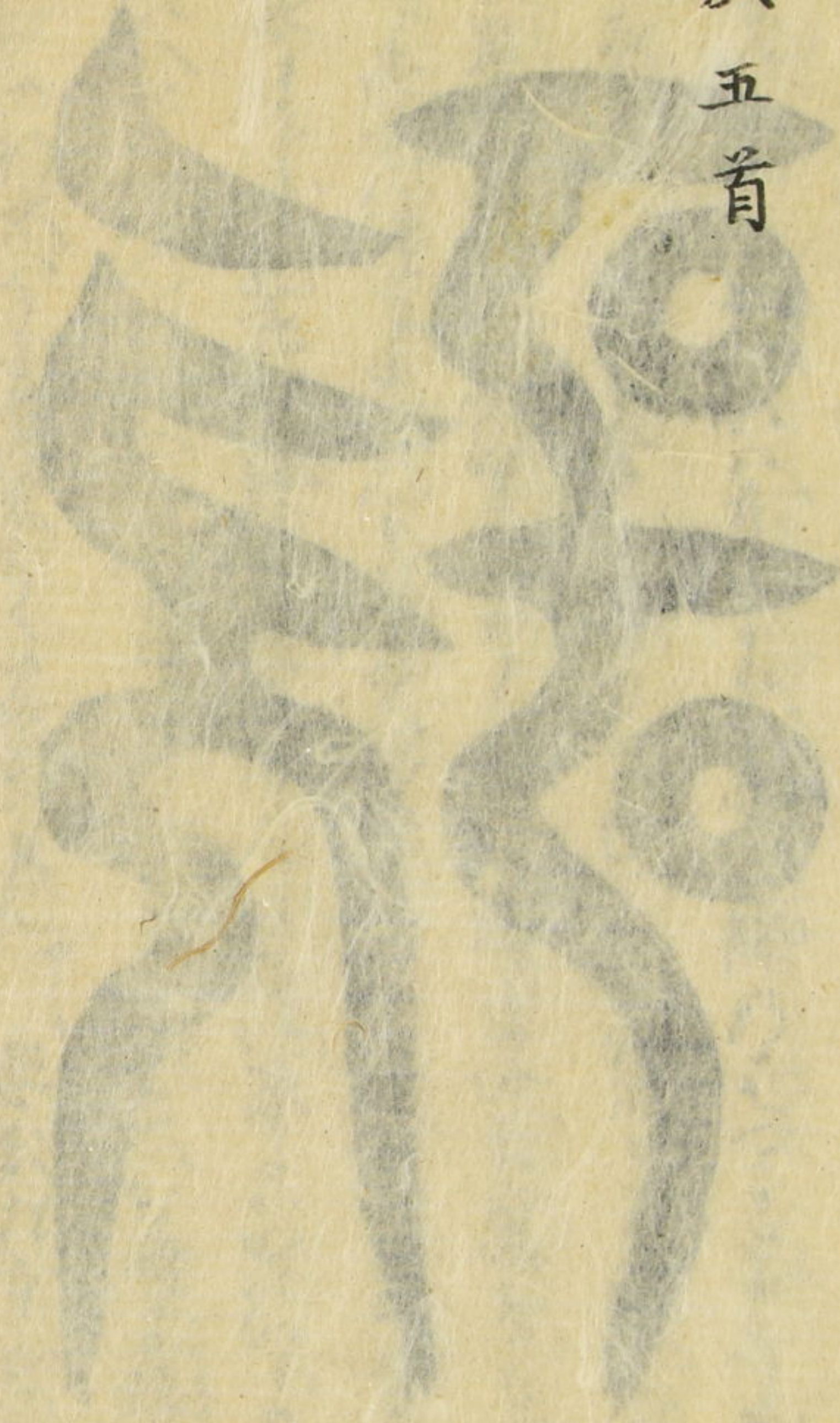
This image displays a single, highly stylized Chinese character in a bold, expressive calligraphic style. The character is rendered in black ink on a light, textured background. It features thick, sweeping strokes with visible brushwork and texture. The overall form is reminiscent of a stylized 'W' or 'V', but it is a specific character, likely 'W' (五) or 'V' (五), written in a highly decorative and calligraphic manner. The strokes are thick and black, contrasting sharply with the light, aged paper. The character is composed of several interconnected, flowing lines that create a sense of movement and energy. The top part of the character has a circular element, and the bottom part has a long, sweeping tail. The overall impression is one of a powerful, dynamic, and artistic calligraphic expression.

文選卷四

卷四

落柿先生挽歌 支考

鄢歌 五首



風俗文選卷之七

丑老并 詩六 漢

○歌類

落柿先生挽歌

支考

此歌四章而後加變弄之歌
三章廣無此法蓋和文一體歟

○たといいかなる年あ積がくあられふ人をのこるるに去年ま
柿を月を浪化の思ふより惜しく我乃光ふ名をふくむ無きはた
叶うべきことなり彩ひもあてぬの陰はゆめのみぬわ月み下
矢ハ夢の村舎は目録なり。さうす彼はやれを合して是よりそ然
月のよきや馬も帰らむとてくれみい。がまき事らむに人
乃教ふ入くかくいふ事どもわがみとみさるん神乃私の夜をまへ
る光の波みよさういふ人然とせしれきた人けいあらわりの世や

文選卷四

卷四

[illegible]

家々聖ホウ惟イ院乃森よから侍て。室ムロきさる乃夢よ終るま。
名ハ森折金折指し物とく。空一ふ秋のよを恨む。
世ハもいなるん。家ハもかくなるん。
窓折あゝーん。枕をよもま。
朝の志ハも子新をーるま。

柿のふもあ神り後おさふふおとく福くまき。人も終くひ。
 尻乃止ふあり。せおろく。ふ心をあら。後病中お人乃さう
 れがらや。

ねき程果に相と立おほふ。そ神さある誠基の山人。お月引
 つま。答お時をいひて。彼夜同ト事なり。でうん。飽とや来ん。
 よきおあ。よきとて。一花おこさる。葉おふ。神基基。おまじり
 有。重。こ。何。乃。と。氣。も。な。く。お。腐。し。る。さ。う。と。お。多。き。さ。う。あ
 づ。こ。も。お。あ。入。く。あ。づ。し。ん。は。せ。え。て。お。十。日。も。な。く。は。は。し。
 は。お。死。う。ん。は。な。が。あ。づ。も。さ。お。の。お。原。よ。き。神。て。父。母。お。う。り。お。み。た
 お。立。ち。し。る。は。お。お。が。お。所。の。河。家。お。ト。よ。か。れ。お。を。くれ。回。
 る。す。り。ん。も。又。あ。し。神。さ。る。づ。一。枝。さ。て。は。佛。よ。き。も。一。月
 投。く。あ。も。お。喘。い。う。人。さ。う。い。け。く。死。方。よ。き。と。く。石。造。り
 かの。飯。食。い。は。が。い。る。茶。茶。茶。茶。切。ら。い。は。け。し。は。じ。今。吾。ん。ん。の。結
 縁。八。世。結。縁。乃。さ。う。い。や。わ。く。石。散。り。お。数。と。合。さ。く。下

春乃廻向を。あ。も。お。く。と。て。は。蘇。け。り。ま。れ。

聖霊祭文

李由

○そ神。お。海。際。乃。あり。さ。ま。ハ。寸。地。お。み。穀。と。使。ね。お。り。く。寡。婦。お。紡。
 績。乃。は。る。れ。日。好。い。と。神。に。貢。献。し。進。ぬ。神。く。饑。に。交。り
 困。る。事。が。こ。い。う。る。神。は。極。糸。淨。土。の。甚。し。と。云。石。味。乃。飯。食。を
 さ。う。と。五。箇。箇。並。よ。き。神。は。れ。お。り。わ。あ。へ。も。此。の。さ。る。け。途。と。い。う。と
 麻。呂。の。杖。川。つ。る。と。戸。板。お。り。ま。の。府。を。な。つ。た。貢。さ。る。和。布。お。き。散
 存。お。こ。り。煮。吟。ふ。麵。の。板。お。あ。い。く。と。え。ん。味。を。神。淨。土。に。あ
 ま。み。飽。く。お。り。淨。乃。の。さ。う。と。さ。う。い。う。と。神。く。る。聖。と。買。り。お。は。り。
 地。獄。乃。を。け。が。り。お。り。あ。づ。り。ん。だ。は。さ。う。お。は。合。お。れ。し。

剃髮文

五老

○恨光乃舍羅精髪のおもふをせといひてふ所のたふを
といふは金髪を捨てる。と此金髪法におしむ。金髪ノ
ヤリ。又は金髪なり。

「そびき」需のあこより也

系猫文 小序

同

此文以四六之法。用漢字韻。也是全似俳諧
之漢和而不然。始以万葉手。亦波文字。因之
為韻。惟為和文用。韻之始。祖太奇也。

○李西が東庵よりいひ乃猶見あきてて、秋をひけりてこ

り。人の子秋をふけりて小秋なり。次。や。長月亦月くわ。隣

家の井よりいへり。乃ありね。な。裏を庵れり。て。此

く。秋自園とせ。改名。も。彼とす。り。人。を。や。り。ふ

けり。ぬ。ら。げ。ま。い。凡。奇。罪。を。ま。ね。が。ま。て。な。成。男。子

乃人果。い。ひ。ひ。なり。其文曰

秋の曙の露子忘きて。冬がふらに。時。一。噪き。

好の露乃裏にか。これ。も。三。唄。が。余。子。一。夜。小。喜。み。

このふを。錦。茵。一。千金乃娘。ま。る。之。も。

あ。ハ。墨。漆。乃。一。重。若。尼。と。な。秋。連。梨。

ふれんぞ

柘木東門の夏。

虚堂和尚の詩。

盗

柳千よあふれて、柘木の脈なる春。

負ふふふ

除ふにふせぬいふ。蛇火の蟲なる時。

風ハ可捕とはくわて。鷹養を杜工部。

蛙々無用といふ。めく。又見ら。白藏司。

首ハ世の宮中。牡丹を薫ふ。花を正に。速

今々李四の庵に。天竺垣におれ。實とふ。遅

おま。佐の孫物。ちやちや。さうに傾城の力。佐

悟世。か。か。高。あ。こ。こ。も。ふ。喜。薩。代。お。教。書。

ま。ハ。お。の。ま。も。一。良。無

蓮の葉のふも降りし。

涅槃の蓮乃声所く。

困が裏の賊を。ちやちや。ふ。ち。や。ち。や。

菩提の月の影。映て。

平林の心。ちやちや。ちやちや。何。疑

お。是。と。高。生

南。と。何。か

弔古戰場文

芭蕉

二。代。乃。子。孫。一。時。乃。力。一。て。大。所。お。れ。き。一。中。こ。う。う。一
あり。考。衡。り。跡。ハ。田。野。小。なり。と。金。雞。山。の。と。取。を。お。も。え。
ふ。結。子。お。れ。き。と。水。上。門。ハ。南。歌。し。り。が。ぬ。大。河。う。る。衣。川。と

五

五

五

五

五

五

東順傳

芭蕉 牧童傳

支考

公平傳

汝郎 五郎四郎傳

支考

靈魚傳

去來 赤氣傳

李由

直指傳

許六



風俗文選卷之八

五老井 許六 選

傳類

東順傳

芭蕉

○老人東順は、播磨一にて、其祖父江別堅固の農士、竹の葉を、
 振て、よよの、昔子が母方より、其方なりし、あゝ七十歳、
 と、その林の月を、わめ、枝乃よ、海や、花の、夜の、を、
 ぶい、さ、り、お、座の、月、り、て、神、を、
 か、み、と、て、大、家、の、書、は、
 恒、の、老、と、い、は、多、何、家、の、
 お、も、く、れ、い、は、世、路、を、い、ひ、く、名、の、衣、を、
 校、を、

直指傳

許六

一、百子ほの入り傳て、此後直指の傳あり。まゝいよと
の者ありと。此處何ら。其乃直指の傳。此のまゝ
まゝと。むゝ。ち。此。家。體。より。其。真。を。い。は。れ。を。
い。ふ。と。名。を。も。實。ある。う。い。ひ。て。あ。る。と。い。ふ。所。に。
あ。て。躬。順。貫。之。の。理。を。見。ぬ。此。は。此。の。實。を。い。は。れ。
乃。の。入。本。體。を。馬。よ。吟。ま。さ。る。と。い。ふ。あ。る。也。後。公。表。
ま。い。く。正。凡。乃。神。を。性。に。配。は。る。也。此。後。不。真。の。異。山。
と。い。ひ。て。是。より。神。と。い。は。れ。は。あ。る。と。い。ふ。神。を。い。は。れ。
あ。い。の。山。系。中。より。み。ち。卷。は。る。と。い。ふ。此。も。ど。此。處。乃。境。

小。ま。い。く。此。指。乃。ま。い。く。一。人。も。な。し。ま。此。處。を。説。
ゆ。と。や。ま。い。く。此。處。を。と。れ。ま。い。く。此。處。を。と。れ。ま。
ま。い。く。一。物。も。な。し。人。魔。の。何。ら。く。ま。い。く。此。處。乃。
境。の。境。を。い。は。れ。乃。ま。い。く。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
ま。い。く。ま。い。く。百人。一。首。の。あ。い。く。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
ま。い。く。い。ま。い。く。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
乃。ま。い。く。ま。い。く。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
ま。い。く。乃。境。を。い。は。れ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
此。處。は。傳。也。傳。の。ま。い。く。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
此。後。血。脈。相。承。乃。者。を。い。は。れ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
ま。い。く。此。處。乃。境。の。境。を。い。は。れ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。

壺
碑

芭蕉

笠塚碑

李由

碑

李由

碑類

五老井詩

壺碑

在奧列市川村
多賀城

芭蕉

○はかり石文を。なるさ六尺あり。横二尺なり。石
と穿て、文字かほり也。四、維國さうあり教中とある。
北、神、元、年。按察使、鎮、府、將、軍。大、野、朝、
臣、東、人、之、下、里、也。天、下、宿、望、之、也。參、詳、東、海、事、
山、節、度、使、同、將、軍、惠、義、朝、臣、攝、使、造、西、十、二、月、
朔、日、とあり。聖武天皇の御時よりあるとむいり
し、みえたる、すけ、ひ、つ、た、り、つ、た、り、とあり。山、節、度、使、
とあり。石、文、に、あ、る、り。石、を、記、し、く、た、し、か、り、神、本、へ、老、

てふもよかり神也。内教を代りて、（五）
なりぬすの式。くふおろく。類いなりふ記念
眼のふ右人の心を開く。ゆゑ一徳。取命の信に
頼る。其の力をく。涙もおろす。ゆゑなりふ。

笠塚碑

そのま

いふ平田邑。光永通照寺の地ふ。光勝を以て其の
遺徳あり。十四世乃信。藤原に入。きつて、
二十余の。恩を記し、（六）
朝ふ。香華を備へ。夕ふ。ハハ
深う。推敵を定め、（七）
じう。きつて、

おぼりて。花の信のをえせけ。作し、
東に。いふ。やむ。日乃。いふ。内教の
いふ。きつて、
はよ。いふ。終ふ。中ふ。光て。内人。一
句を。きつて。かの。信。いふ。細じ。世は。信。を
あ。きつて。いふ。信。信。いふ。信。信。
中。いふ。信。信。信。信。信。信。信。信。
さ。信。いふ。乃。信。いふ。信。いふ。信。信。
き。いふ。あ。いふ。信。信。信。信。信。信。
り。信。いふ。信。信。信。信。信。信。信。信。
り。信。いふ。信。信。信。信。信。信。信。信。

出た乃内集より口より一と。子集子集由
 文員年護下るるをいふ。





廣大舎

涼しきや家不さしいとて
七月

早稲もや日入るるの晩は
一晩

床しみの跡を晴しに
夏の月

後からふりて
正市

軍勢のふりて
夏の月

あつたやなを
はの月

あつたやなを
夏の月

あつたやなを
夏の月

あつたやなを
夏の月

あつたやなを
夏の月

あつたやなを
夏の月

あつたやなを
夏の月

あつたやなを
夏の月

あつたやなを
夏の月

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ

あふちあふちなるあふち

頃わ